

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-245567
(P2000-245567A)

(43)公開日 平成12年9月12日(2000.9.12)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I
A 47 C 7/44
7/48

テマコード(参考)
3B084

審査請求 未請求 請求項の数 1 OJ (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-50937
(22) 出願日 平成11年2月26日(1999.2.26)

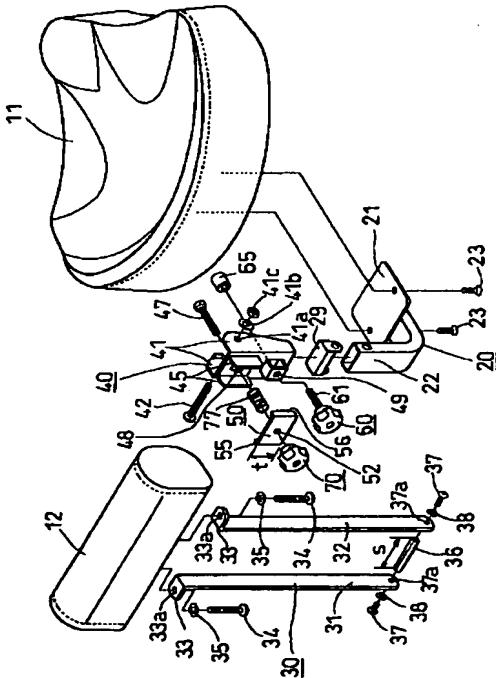
(71)出願人 000195018
星野楽器株式会社
愛知県名古屋市東区植木町3丁目22番地
(72)発明者 星野 義裕
名古屋市守山区小幡北山2758番地475
(74)代理人 100079050
弁理士 後藤 憲秋 (外1名)
Fターム(参考) 3B084 EA04 EB01 EB02 GA01

(54) 【発明の名称】 ドラム椅子の背もたれ構造

(57) 【要約】

【課題】 背もたれが演奏の邪魔にならずまた演奏者の好みに合わせて背もたれ位置の調節ができ、またコンパクトに持ち運びができるドラム椅子の背もたれ構造を提供する。

【解決手段】 ベース本体20と、左右2本のアーム部31、32を有する背もたれ本体30と、軸支部41、アーム摺動部45、アーム固定ねじ47及びベース本体の立上り部に対向して形成されたねじ穴部49とを備えたアーム保持部材40と、前記アーム固定ねじを挿通する挿通孔52、前記左右のアーム部の外側に摺接する鰐部55、56とを備え前記挿通孔を中心に90度回動したときには前記左右のアーム部の内側に収容される大きさを有するアーム押え板50と、前記アーム保持部材のねじ穴部に螺着されるねじ部61と前記ベース本体の立上り部に当接する当接部65を備えた前後調節ねじ部材60と、前記アーム固定ねじに対して前記アーム押え板の外側から螺着されるアーム固定ナット部材70とからなる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 座部(11)に対して背もたれ部(12)が高さ及び角度調節が自在でかつ取り外し可能な構造であって、前記座部へ固定され、該座部背面側における立上り部(22)を有するベース本体(20)と、前記背もたれ部(12)が取り付けられ、一定間隔(s)を有する左右2本のアーム部(31, 32)を有する背もたれ本体(30)と、前記ベース本体の立上り部に軸部(42)を介して前後方向に回動自在に保持される軸支部(41)と、前記左右のアーム部がその内側に沿って摺接するアーム摺動部(45)と、該アーム摺動部の内側に突設されたアーム固定ねじ(47)と、前記ベース本体の立上り部に対向して形成されたねじ穴部(49)とを備えたアーム保持部材(40)と、前記アーム固定ねじを挿通する挿通孔(52)と、前記左右のアーム部の外側に摺接する鍔部(55, 56)とを備え、前記挿通孔を中心回動したときには前記左右のアーム部の内側に収容される大きさを有するアーム押え板(50)と、前記アーム保持部材のねじ穴部に螺着されるねじ部(61)と、該ねじ部先端に前記ベース本体の立上り部に当接する当接部(65)を備え、前記ねじ部による当接部の進退に伴って前記アーム保持部材をその軸支部を介して回動する前後調節ねじ部材(60)と、前記アーム保持部材のアーム固定ねじに対して前記アーム押え板の外側から螺着されるアーム固定ナット部材(70)とからなることを特徴とするドラム椅子の背もたれ構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、ドラム椅子の背もたれ構造に関する。

【0002】

【従来の技術】ドラム椅子の背もたれは、例えば、ドラム演奏の合間に演奏者が休んだり、あるいはまた、ツインバスやツインペダルを使う際に両足を同時にペダル部分に配置することによる演奏者の姿勢の不安定さを支えるために用いられる。

【0003】従来のドラムの背もたれは、事務用椅子の背もたれを取り付けているものが一般的である。例えば、図9および図10に示すドラム椅子90は、背もたれ部91、L形アーム93及び座部97によって構成されている。座部97の下面に設けられた保持部材95にL形アーム93の一端を差し込んだ状態で該L形アーム93を固定ねじF1により固定し、その際L形アーム93の差込の深さを調節することによって座部97に対する前後方向の位置を決定する。一方、L形アーム93の他端には背もたれ部91の挿入板部92を差込孔93a

に差し込んで固定ねじF2により背もたれ部91を固定し、その際挿入板92の差込の深さを調節して、背もたれ部91の高さを決定する。また、持ち運びの際には、背もたれ部91、L形アーム93および座部97の各部に分解し、使用する場所で再び組み立てる。

【0004】ところが、事務用椅子の背もたれ部は、人の背中に沿うような湾曲形状のものが一般的で、また身幅程のサイズにされた大きめのものが多い。そのため、演奏中に演奏者の背中が不意に接触してしまうことがあり、椅子が動いてしまい椅子が倒れそうになることもある。

【0005】また、ドラムを演奏する人の好みや体型に合わせて背もたれの位置を調節できることが望まれる。ところが、例えば図9および図10に示すような従来の椅子では、L形アーム93を保持部材95に浅く差し込んでいると、演奏者が背もたれにもたれる等の力が加えられた時に、L形アーム93と保持部材95の固定が緩みやすい。そのため、L形アーム93を深めに差し込むことがほとんどである。また、背もたれ部91の高さ調節は、挿入板92の長さとL形アーム93の差込孔93aの深さ分だけにとどまり、演奏者の希望に沿うように調節できるほどの範囲ではなかった。

【0006】また、持ち運びの際にはできる限りコンパクトに収まるものが好まれるが、従来のものでは、固定ねじF1部のみを分解しただけでは充分コンパクトとは言えず、固定ねじF2部まで分解すると手間がかかってしまし、ドラム椅子のせもたれとして充分とは言い難い。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】この発明はこのような問題点に鑑みなされたもので、背もたれが演奏の邪魔にならずまた演奏者の好みに合わせて背もたれ位置の調節ができ、またコンパクトに持ち運びができるドラム椅子の背もたれ構造を提供するものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】この発明は、座部に対して背もたれ部が高さ及び角度調節が自在でかつ取り外し可能な構造であって、前記座部へ固定され、該座部背面側における立上り部を有するベース本体と、前記背もたれ部が取り付けられ、一定間隔を有する左右2本のアーム部を有する背もたれ本体と、前記ベース本体の立上り部に軸部を介して前後方向に回動自在に保持される軸支部と、前記左右のアーム部がその内側に沿って摺接するアーム摺動部と、該アーム摺動部の内側に突設されたアーム固定ねじと、前記ベース本体の立上り部に対向して形成されたねじ穴部とを備えたアーム保持部材と、前記アーム固定ねじを挿通する挿通孔と、前記左右のアーム部の外側に摺接する鍔部とを備え、前記挿通孔を中心回動したときには前記左右のアーム部の内側に収容される大きさを有するアーム押え板と、前記アーム保

持部材のねじ穴部に螺着されるねじ部と、該ねじ部先端に前記ベース本体の立上り部に当接する当接部を備え、前記ねじ部による当接部の進退に伴って前記アーム保持部材をその軸支部を介して回動する前後調節ねじ部材と、前記アーム保持部材のアーム固定ねじに対して前記アーム押さえ板の外側から螺着されるアーム固定ナット部材とからなることを特徴とするドラム椅子の背もたれ構造に係る。

【0009】

【発明の実施の形態】以下添付の図面に従ってこの発明を詳細に説明する。図1は本発明の一実施例における背もたれ部を備えたドラム椅子の全体を示す側面図、図2はその要部の斜視図、図3は要部を分解して示した斜視図、図4は背もたれ本体の高さ調節状態を示す縦断面図、図5は図4における要部の横断面図、図6はアーム押さえ板をアーム保持部材から離隔した状態を示す横断面図、図7は背もたれ本体の角度調節状態を示す断面図、図8は背もたれ本体をアーム保持部材から取り外した状態の斜視図である。

【0010】図示するように、本発明のドラム椅子の背もたれ構造は、座部11に対して背もたれ部12が高さ及び角度調節が自在でかつ取り外し可能な構造であって、ベース本体20、背もたれ本体30、アーム保持部材40、アーム押さえ板50、前後調節ねじ部材60およびアーム固定ナット部材70の各部分より構成されるものである。

【0011】座部11は、図1のように、ドラム演奏者が座るための部分で、座り心地等が考慮され所定の凹凸形状に形成されている。なお、座部11の下側には脚部Yが設けられ、該座部の中央部分においてドラム椅子全体を支えている。

【0012】ベース本体20は、図1ないし図3に示されるように、後述する背もたれ部12が設けられた背もたれ本体30と座部11を一体にするためのもので、前記座部11へ固定され、該座部11の背面側における立上り部22を有している。図示の実施例では、ベース本体20は側面視略L字形状にされていて、一側において取付板21を介して座部11下面に取付ねじ23、23により固定されている。なお、図3の符号29は簡状に形成されたベース本体20の上端を覆うキャップ部材である。

【0013】背もたれ本体30は、ドラム演奏者の背中が接触する背もたれ部12を座部11に対して上方の所定位置に設置するためのものであり、前記背もたれ部12および左右2本のアーム部31、32により構成されている。背もたれ部12は、樹脂やファブリック等からなり略楕円形状や円筒形状等適宜形状に成形されていて、その大きさはドラム演奏者の背中の一部に接触する程度の小型でもよい。また、背もたれ部12の下端においてはスペーサー36を介在させてアーム部31、32

が一定間隔sを保っている。このスペーサー36は、孔部37a、37a及びばね座金38、38を介して取付ねじ37、37により固定されている。なおアーム部31、32上端には、図3のように、取付部33、33が設けられていて、背もたれ部12の下面において取付ねじ34、34が取付孔33a、33aにばね座金35、35を介在して螺着固定されている。

【0014】アーム保持部材40は、前記背もたれ本体12の保持及び位置調節のために設けられたもので、軸支部41、アーム摺動部45、アーム固定ねじ47及びねじ穴部49とにより構成されている。軸支部41は、アーム保持部材40を前記ベース本体20の立上り部22に軸部42を介して前後方向に回動自在に保持するものである。図3の符号41aは軸部42が貫通する軸穴であり、41bおよび41cは座金およびナットである。アーム摺動部45は、前記背もたれ本体30の左右のアーム部31、32がその内側に沿って摺接する部分で、実施例では図のように断面U字状の溝部材によって構成されている。また、アーム固定ねじ47は前記アーム摺動部45の内側に形成された固定ねじ穴部48を介して突設され、後述するアーム押さえ板50の挿通孔52に挿通される。さらに、固定ねじ穴部48の下側にはベース本体20の立上り部22に対向してねじ穴部49が設けられており後述する前後調節ねじ部材60が螺着される。

【0015】アーム押さえ板50は、前記背もたれ本体30の左右2本のアーム部31、32をアーム保持部材40の所定の位置に保持固定するためのものであり、前記アーム固定ねじ47を挿通するための挿通孔52と、前記左右のアーム部31、32の外側に摺接する鍔部55、56を備える。アーム押さえ板50は、図5に示したように、その鍔部55、56の内面が背もたれ本体30の左右のアーム部31、32の外側に略密接した状態に構成される。また、このアーム押さえ板50は、その挿通孔52を中心にして90度回動させた際に、図8に示すように、前記左右アーム部31、32の内側に収容される大きさにされている。この実施例ではアーム押さえ板50の縦辺の長さtが左右2本のアーム部31、32の一定間隔sより小さく構成されている。

【0016】前後調節ねじ部材60は、前記アーム保持部材40をその軸支部41を介して回動させて該アーム保持部材40に保持された背もたれ本体30の角度を調節するためのものであり、前記アーム保持部材40のねじ穴部49に螺着されるねじ部61と、該ねじ部61の先端に前記ベース本体20の立上り部22に当接する当接部65を有する。前後調節ねじ部材60の進退によってその先端の当接部65による前記ベース本体20の立上り部22への当接距離を変化させ、もって前記アーム保持部材40を軸支部41から回動して背もたれ本体30の角度調整をなす。

【0017】アーム固定ナット部材70は、前記アーム保持部材40に左右2本のアーム部31、32をアーム押さえ板50によって固定させるものであり、前記アーム保持部材40のアーム固定ねじ47に対して前記アーム押さえ板50の外側から螺着している。なお、符号77はアーム押さえ板50を常時外側へ付勢しているバネである。

【0018】次に、図4ないし図8に従って、ドラム椅子の背もたれ構造の高さ及び角度調節の作動を説明する。図4に示す様に、背もたれ部12の高さ調節は、背もたれ本体30のアーム部31(32)をアーム保持部材40のアーム摺動部45に沿って上下方向に摺動させることにより行われる。アーム部31(32)が固定されている場合には、図4及び図5に示す様に、アーム固定ナット部材70が締められており、アーム部31、32の内側がアーム摺動部45に密接しさらにアーム押さえ部50の鍔部55、56にアーム部31、32の外側が密接している。

【0019】背もたれ部12の高さを調節する際には、図6に示す様に、アーム固定ナット部材70を緩め、アーム押さえ板50の鍔部55、56を左右2本のアーム部材31、32から離して該アーム部31、32の固定状態を解除する。スペーサー36によって所定間隔sにされた左右のアーム部31、32は、アーム摺動部45の外側に沿って上下方向に密接しながら移動する。背もたれ部12を適宜の位置に配置した後アーム固定ナット部材70を締め、アーム押さえ板50の鍔部55、56をアーム部31、32の外側に配置して固定する。

【0020】次に、背もたれ部12の角度調節は、前後調節ねじ部材60のねじ部61の当接部65を前後させ、アーム保持部材40をその軸支部41を介して回動することにより行われる。背もたれ部12の角度を調節する際は、前後調節ねじ部材60を立上り部22に向かって前進させると、その先端の当接部65が該立上り部22に当接し、該立上り部22を押圧することによって、背もたれ本体30が保持されているアーム保持部材40は軸部42において座部11方向に回動し、図7に示す様に背もたれ部12およびアーム部31、32が傾動する。一方、前後調節ねじ部材60を後退させれば、背もたれ本体30は後方へ傾動する。

【0021】また、本発明構造では、図8に示すように、背もたれ部12を有する背もたれ本体30がベース本体20から取り外し可能とされる。背もたれ本体30がベース本体20から取り外されると、アーム保持部材40、アーム押さえ部50、前後調節ねじ部材60及びアーム固定ナット部材70が立上り部22に固定されている座部11が得られる。すなわち、ドラム椅子は背もたれ本体30とそれ以外の部分に分けることが可能である。

【0022】背もたれ本体30を取り外すには、図8の

ように、アーム押さえ板50をその挿通孔52を中心に90度回動させて行う。前記したように、アーム押さえ板50はその挿通孔52を中心に90度回動させたとき背もたれ本体30の左右2本のアーム部31、32の内側に収容される大きさに構成されているので、スムーズに取り外すことができる。

【0023】

【発明の効果】以上図示し説明したように、この発明におけるドラム椅子の背もたれ構造によれば、座部に対する背もたれ部の高さ及び角度調節が自在にされているため、演奏者の希望に合わせて背もたれ部の位置を調節することが可能であり、また、その調節は前後調節ねじ部材及びアーム固定ナット部材によって簡単に行うことができる。背もたれ部の位置調節を自在とすることによって、演奏者の最も好む位置で演奏することができ、演奏中に不意に接触してしまうなどの問題が解消される。

【0024】また、背もたれ本体が取り外し可能であるため、ドラム椅子の持ち運び、収納等の場合にも、背もたれ本体部分とそれ以外の部分に分割すればよく便利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例における背もたれ部を備えたドラム椅子の全体を示す側面図である。

【図2】その要部の斜視図である。

【図3】要部を分解して示した斜視図である。

【図4】背もたれ本体の高さ調節状態を示す縦断面図である。

【図5】図4における要部の横断面図である。

【図6】アーム押さえ板をアーム保持部材から離隔した状態を示す横断面図である。

【図7】背もたれ本体の角度調節状態を示す断面図である。

【図8】背もたれ本体をアーム保持部材から取り外した状態の斜視図である。

【図9】従来のドラム椅子の一例を示す側面図である。

【図10】その背面図である。

【符号の説明】

11 座部

12 背もたれ部

20 ベース本体

22 立上り部

30 背もたれ本体

31, 32 アーム部

36 スペーサー

40 アーム保持部材

41 軸支部

42 軸部

45 アーム摺動部

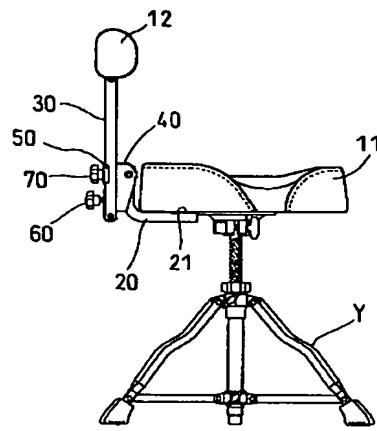
47 アーム固定ねじ

49 ねじ穴部

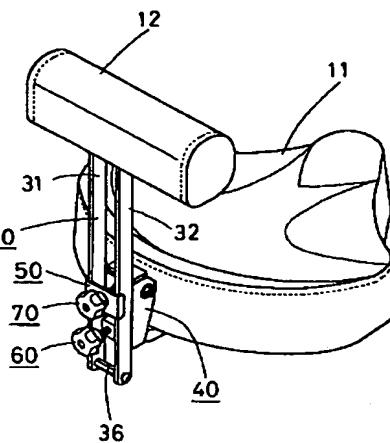
50 アーム押さえ板
52 挿通孔
55, 56 鍔部
60 前後調節ねじ部材

61 ねじ部
65 当接部
70 アーム固定ナット部材

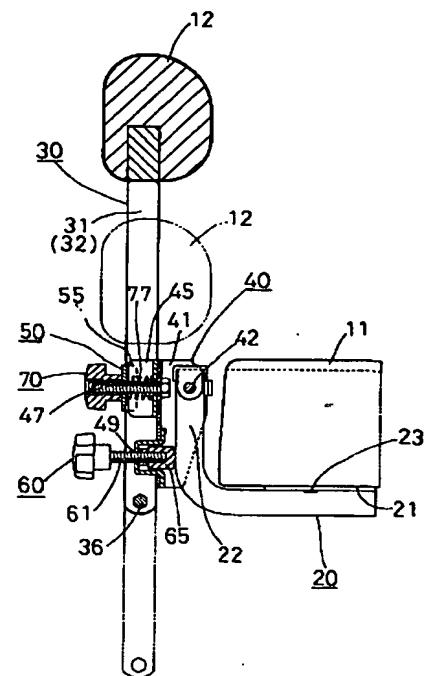
【図1】



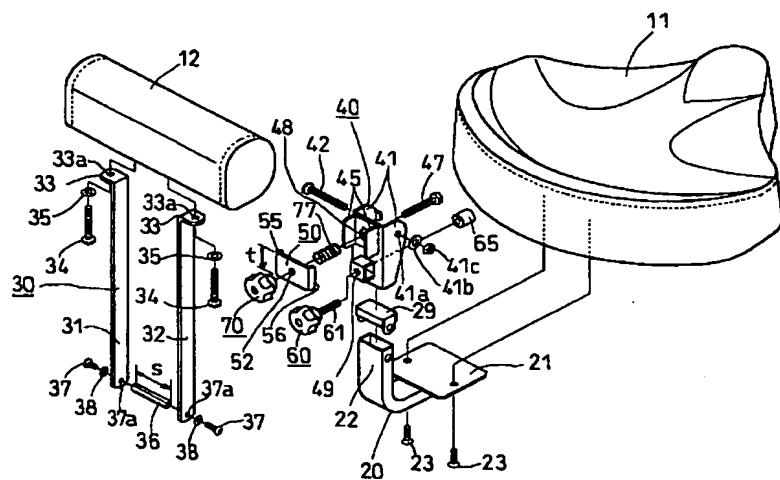
【図2】



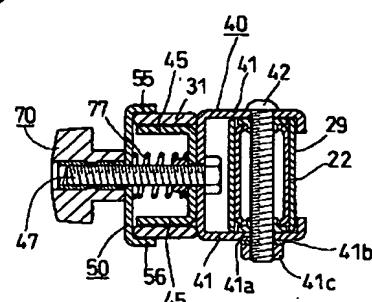
【図4】



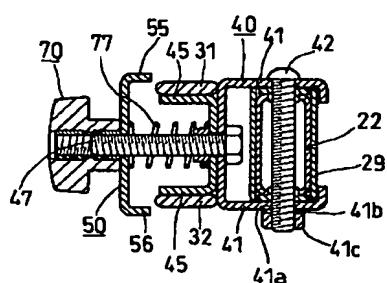
【図3】



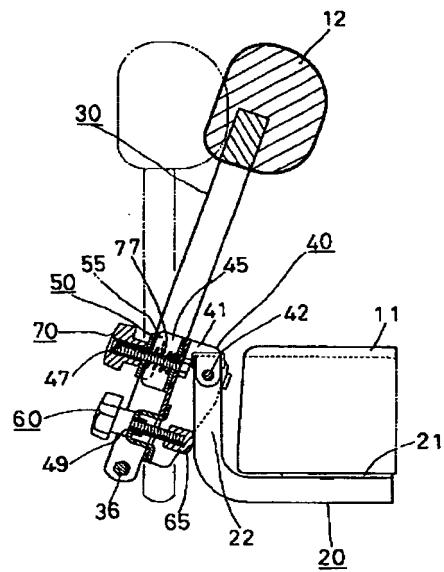
【図5】



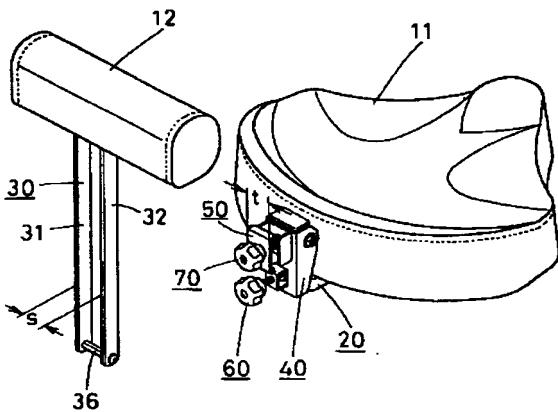
【図6】



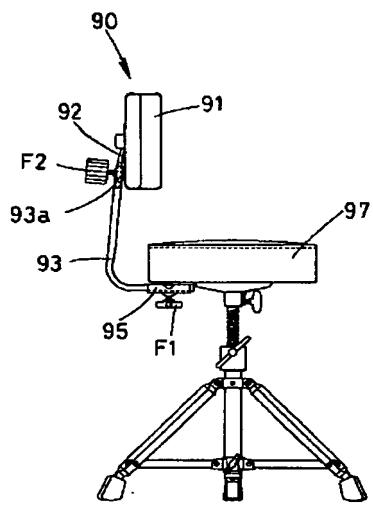
【図7】



【図8】



【図9】



【図10】

